



みらいん

みやぎの

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



今月の
ひと

歌うのは岡田の讃歌 岡田合唱団

**地域を歌で楽しく盛り上げながら
団員を増やして輪を大きくしたい**

岡田合唱団の始まりは、二〇一一年の秋に「岡田の皆で学芸会のようなことをしよう!」という地域の機運が高まって催された音楽祭での合唱披露でした。岡田小学校のPTAがメインだったメンバーは現在、小学生から六十代、校長先生まで約十五名の方々に構成され、経験者がリードしての練習が行われています。

岡田小卒業生が在学中につくった詩に、同校出身の歌手、清貴きよたかさんが曲をつけた「岡田の風」や、代表の熱海あつみ努さん(写真右から二番目)が自身の身内に起きた出来事を元に制作した「思いを込めて〜おかだのかぜに〜」など、郷土愛のこもった曲の数々を、各地のコンサートで歌ってきました。

合唱することで得られる充実感や仲間との出会いを求めて練習に参加する方もいれば、「情緒不安定だった時期、歌うことで救われた」といった方もいます。歌う理由はさまざまでも、歌うことが何より楽しいという思いは一緒です。

熱海さんは「楽天イーグルスの試合開始前の国歌斉唱をすることが今後のひそやかな夢です」と語ってくれました。

2013
5月



▲今春の卒業生と中野小学校6年生が奏でた中野太鼓。蒲生一帯に響き渡りました

皆さんから校舎へ「ありがとう」メッセージ



▲記念撮影後に飛ばした「未来への風船」が、勢いよく風にのりました



思い出がいっぱいある。「みんな、ありがとう」と書きました。先生の似顔絵も！松本春香さん(前列右から2番目)高砂中学校3年／中野小で学んだことや思い出を生かしていけるような将来になればいいな。郡山結衣さん(前列左から3番目)高砂中学校3年／震災後は両親の実家がある岩手県に引っ越したので、久しぶりに同級生に会えてとてもうれしい。でも、周辺の地形を見たら悲しい。皆と離れてるけど、私も頑張ります。長根里帆さん(前列右から3番目)一関中学校3年



娘の瑠奈(前列左)と同級生の伊藤なほ子ちゃん(前列右)は幼稚園からの友だちですが、多賀城市で単独再建をするため、中野小から転校します。今日は良い機会でした。高橋恵子さんと田出身

学校にはとても感謝をしています。4年生になって、難しい問題も解けるように頑張ります。大久保柊弥さん(左端)中野小学校4年／なんか懐かしい！友だちと校庭とかでいっぱい遊んで楽しかった。小竹百花さん(中央)中野小学校4年／卒業生です。今日は甥とその友だち



と一緒に参加しました。きんすはじめ 金須創さん(右端)和田出身



10年前に卒業した仲間です。校舎への感謝の気持は忘れられないですね。校舎が無くなってもずっと思い出の地。「ここが母校」という気持ちは変わらない。

渡辺拓馬さん(最後列左端)西原出身



皆、同級生です。私の母校でありながら、子どもたちにとっても母校なので、校舎が無くなるのはすごく寂しい。再建を急ぐ必要があり単独移転しました。高橋郁子さん(左端)港出身



中野小学校校舎にありがとう

東日本大震災で甚大な被害に遭い、大破した中野小学校校舎、屋内運動場、プールが解体されることになりました。子どもたちの学校生活を支え、震災時には多くの命を救ってくれた校舎へ感謝を伝えようと、3月31日に小・中学生と高校生対象の「お別れイベント」が、4月7日には地域の皆さんを対象の「お別れ会」が催されました。両日合わせて在校生、卒業生、地域の皆さん約1500名が、思い出深い校舎に「ありがとう」を伝えました。ここでは、両日の参加者から寄せられたコメントをお届けします。



▲きれいに整備されていた震災前の校舎

たくさん命を救ってくれた校舎に、ありがとう

中野四町内会には独自の「自主防災会」があり、東日本大震災当時、私は会長を務めていました。「自主防災会」が震災三年前から町内の津波避難訓練を実施し、前年十月の避難訓練で備蓄倉庫を確認したため、津波翌日までの食料と飲料水があり慌てずに対処できました。

震災当日、中野小学校には地域住民、地元企業に勤務する会社関係者など、〇才の乳児から九十才の高齢者まで、約六百名が避難していました。

津波の水が引いた後は、皆が協力し合って教室を片づけ、小学生、会社関係者、町内会ごとに別れて各教室に避難。当時の伊藤公校長先生が根気強く非常用無線電話をかけ続けて、夜半には市の災害対策本部へつながり、自衛隊のヘリコプターでケガ人や病人を救出。「炎が迫る陸の孤島」を市消防局のヘリコプターで消火してもらい、救助の手が届いたのでした。皆で支え合ったあの日、我々を守ってくれたこの校舎に感謝し、皆で未来へ歩みだす春です。

西原町内会長 大和田哲男さん

みらい編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

● 17日(日) 東日本大震災
中野学区合同慰霊祭
(中野小学校駐車場跡地)



中野地区4町内で亡くなられた150余名の尊い命に思いを馳せ、遺族をはじめ約1200名が参列して冥福を祈りました。式典の最後には、追悼の風船が早春の青空を彩りました。

● 17日(日) 「岡田の風Vol.2」と桜植樹
(岡田小学校)



津波到達地域の学校を中心に桜の植樹活動をしている「桜3.11学校プロジェクト」の支援により、参加者皆でエドヒガンザクラを校庭に植え、願いをつづった風船を空に放ちました。続いて催された音楽祭では、色々な歌や演奏、南蒲生雀乃舞による雀踊り、岡田合唱団による「思いを込めて」などが披露されました。ラップとアイドルの合体グループによる歌は、

震災に関連した題材からお雑煮に関するものまで幅広く、好評でした。締めくくりとして、鎮魂の思いが込められた花火が岡田の夜空に打ち上げられました。

わたしの近況報告

第12回

このコーナーでは、中野・岡田地区出身で現在は借り上げ民間賃貸住宅などにお住まいの方々にリレー形式でご登場いただきます。



佐藤さんご一家(岡田・新浜)
(左から)章乃さんと愛犬「まる」、静男さん

障害のある人にとっての震災

新浜で長男・賢一郎さん夫妻、孫2人と一緒に家族6人で生活していた静男さんと章乃さん。隣に長女・直美さん家族4人が住んでおり、常に両家族10人が集まり笑顔に溢れていました。発災時はいったん

宮城野児童館に避難した静男さんと章乃さんでしたが、同児童館が指定避難所でなかったため、ほどなく移らなければいけない状況になりました。14年前に脳出血で倒れ、その後遺症で障害のある静男さんの姿を見た同館長が、「大勢が避難する岡田小学校体育館での生活は難しいだろう」と、根白石の特別養護老人ホームを紹介してくれて、章乃さんも一緒にお世話になりました。入所当初から3月末までの期限があったため、3月下旬から2ヵ月間は友人が探してくれた福田町のアパートへ入居。震災間もないころ、静男さんは「要支援2」でしたが、限られた場所でほとんど動かない生活が続くうちに、身体の機能が著しく衰えてしまい、今は「要介護2」に悪化してしまいました。

新浜で再び支え合って暮らしたい

章乃さんは、自力での歩行が困難な静男さんの生活を考えて建物の1階にある物件を探し、2011年5月から直美さん家族と一緒に白鳥の借り上げ民間賃貸住宅に住んでいます。新浜に避難道路が整備されるころになったら、福田町南1丁目公園仮設住宅に住む賢一郎さん家族と一緒に、元の場所で家を再建したいと願っています。

46年前、東京の職場で知り合い駆け落ち同然で結婚した静男さんと章乃さん。初めは結婚に反対していた章乃さんの父の形見であるバラが、昨年、震災に耐えて自宅跡の庭できれいな花を咲かせました。「家族を守ってくれたんですね」と、章乃さんは静かに語りました。

読者から
ひとこと

● 次男の湊弥がこの春、中野小学校に入学しました。間借り校舎のうえにスクールバスの時間が決まっているため、放課後の遊び場所、遊べる仲間が限られてしましますが、人見知りせず育ててほしいですね。震災時一年生だった長男は、元気に四年生になりました。 大久保亮さん

● 三月十一日は「鎮魂の日」、または「慰霊の日」として国民の休日にしたらどうでしょう。皆が慰霊の心で過ごす日であって良いのではないのでしょうか。震災前よりもヨコの繋がりが密になり、今は毎年同窓会を行っています。 小野寿朗さん

● 三月十二日に二年越しの結婚式を挙げました。本当は震災翌日が予定日でした。つらいことも多いけれど、娘の乙連がいてくれたからこそ、何とかしないと、と頑張っています。式にはぎやかでしたよ。 鈴木淳さん

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

南蒲生復興部

個々の生活再建と復興を迅速に進めるため、南蒲生独自の復興まちづくりを進めています。

四月十日(水)定例会議

内容

- 仙台市消防局から津波避難施設の説明
- 支援組織から今後の活動事業計画について

当日の様子

二カ所に建設予定の津波避難施設について、消防局から概要説明がありました。岡田会館西側ゲートボール場跡地に建設予定の避難タワーについて、津波からの一時避難施設とする説明に対して、住民からは避難施設以外の使い道や景観の配慮を望む声がありました。交通局岡田出張所敷地内の避難施設については、地元農産物などの直売所を兼ねた、まちづくりと連携する機能が求められました。支援組織・都市デザインワークスからは、地域の復興と自立に向けた活動計画が提案されました。



問い合わせ先
代表 芳賀正 090-4042-9464
住民説明報告会
毎月最終日曜日 岡田会館

新浜復興の会

現地再建グループと岡田久保野地区への集団移転グループが、復興に向けてそれぞれ活動しています。

三月三十日(土)移転希望者説明会

内容

- 久保野地区の宅地割り、宅地価格の説明
- 個別契約に向けての説明

当日の様子

集団移転先である久保野地区の開発コンサルタントから、宅地割りと販売単価の説明があり、地区コミュニティに配慮がなされた世帯配置が公表されました。売買契約に向けての説明では、六月の開発許可申請に向けて五月中に売買契約を進めていくことが確認されたほか、金融機関の融資利用について説明を求めめる声が上がりました。行政からは、開発行為などの手続きについて引き続き支援を行っていく旨の話がありました。他に、開発区域に隣接した共同農地の取り扱いについて協議がなされました。



復興の会の問い合わせ先
代表 遠藤芳広 090-2020-4002
会合は随時開催

中野小学校区
復興対策委員会

中野地区四町内会(港、蒲生、西原、和田)が「丸」となり、復興に向けた活動を行っています。

四月七日(日)、二十一日(日)定例会議

内容

- 委員会側から仙台市への要望事項の協議
- 配布資料をもとに復興事務局から説明と報告

当日の様子

同委員会の各委員が住民の皆さんから常々相談や質問されている事項について、改めて仙台市へ質問しました。復興事務局からは、「仙台港背後地住宅地区の宅地申込状況と今後の予定」「移転跡地の面積確定並びに契約状況」について、配布資料をもとに説明がありました。また「復興公営住宅への入居意向調査」についても、改めて説明がありました。

二十一日には、五月から四町内の住民最大各二名を傍聴人として会議に迎えることが確認されました。傍聴希望者は高橋委員長まで。



問い合わせ先
委員長 高橋実 022-258-3068
定例会議
毎月第1、第3日曜日 16:00~
鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

※記載している内容は、各開催日現在での情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください

東日本大震災から二年。今、さまざまなかたちで支援を続けている方々がいまいます。地域に根づいて支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。情報ボランティア@仙台の大学生記者が取材しました。

「お水の量はこのぐらいかしらね？」さあ鉄板、温まったわよ！」エプロン姿の女性たちの楽しげな声が飛び交い、その雰囲気は、さながら調理実習です。

三月末、若林区蒲町のサンピア仙台であった「ふれあい喫茶」。この日はメーカー担当者を講師に迎えた

「お好み焼き講座」がメインです。近隣の借り上げ民間賃貸住宅などで暮らす二十名と、ボランティア十名が一緒に約二時間、お好み焼きをほおばりながら穏やかなひと時を過ごしました。

ふれあい喫茶は、みやぎ生協が二〇一一年五月から県内各地で開いている支援活動です。目的は「被災された方々に心落ち着ける時間を提供し、コミュニティづくりを応援すること」。現在、仙台市内では仮設住宅集会所など十一カ所と生協四店



参加者の間で給仕に動き回る高橋さん(中央)。「おいしい?」「また来てね」などと声を忘れません

舗の集会所で、それぞれ月一回程度のペースで開いています。スタッフは地元の生協組合員らのボランティア。基本はお茶やコーヒーとおしゃべりを楽しむ場ですが、取材時のように料理や手芸品を一緒につくるなどの趣向もあります。

お茶と一緒に振舞われる菓子類は、全国各地にある生協からの支援品です。その多くは各地の「ご当地菓子」。そんなささやかな心遣いは、参加者にも好評です。

「被災地を訪れるだけが支援じゃありません。私たちの支援も、全国



取材の日行っていたお好み焼きづくり。家事だと面倒に思えることも、仲間と一緒に楽しむに変わります

からの支えで成り立っています」。みやぎ生協仙塩ボランティアセンター長の高橋朋子さんは「一人は万人のために、万人は一人のために」の理念を同じくする全国の同志に感謝します。

高橋さんには忘れられない思い出があります。震災後、ショックで声が出せなくなった女性がいきました。ふれあい喫茶に参加し、皆と一緒にゆつくり歌を口ずさむ中で、自然と自分の声を取り戻したのです。「人と触れ合い、一緒に時間を過ごすことが人を癒す大きな力になるんだと再

確認しました。規模は小さくても今後でもできる限り、ふれあい喫茶を続けていきたいと思っています」

ふれあい喫茶では震災後、連絡が途絶えてしまった人同士が再会を果たすことも多いといわれています。「また会えて良かった!」。地道な場づくりは、つながりの再生にも一役買っています。

ふれあい喫茶 5月開催日程 申込不要、参加無料

- ◆15日(水) 若林区/みやぎ生協六丁の目店店内 太白区/NTT八木山南社宅集会所 (ミニトマトの上手な育て方)
- ◆21日(火) 青葉区/みやぎ生協八幡町店集会所
- ◆21日(火) 若林区/JR南小泉アパート仮設住宅集会所
- ◆21日(火) 太白区/NTT三神峯社宅集会所 (紙粘土のうさぎづくり)
- ◆22日(水) 宮城野区/扇町1丁目公園仮設住宅集会所
- ◆24日(金) 太白区/あすと長町仮設住宅集会所
- ◆25日(土) 泉区/NTT鶴が丘社宅集会所 (キャンディボックスづくり)

時間/各日10:30~12:00(24日のみ10:30~11:30)
 間/みやぎ生協仙塩ボランティアセンター
 022-218-3880(平日9:30~18:00、祝日を除く)
<http://www.miyagi.coop/support/shien/volunteer/>
 ※開催日程は、1~2週間前からホームページや各会場のちらし・ポスターで告知

取材:梅村雅@東北学院大学

情報ボランティア@仙台 ブログでも発信中です。

「心落ち着ける場 みやぎ生協の「ふれあい喫茶」」<http://flat.kahoku.co.jp/u/volunteer/16/> より (地域SNS「ふらっと」ブログ)

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

荒浜フォーラムを開催します

荒浜の復興について考えるフォーラムを開催します。作家や民俗研究家の講話、荒浜の復興を考えるシンポジウム、荒浜再生の活動計画を考えるワークショップなどを2日間にかけて行います。申込不要、参加無料。

対象 どなたでも参加できます

時 5月25日(土)15:00~18:00、5月26日(日)9:30~16:00

場所 七郷市民センター

内容 森まゆみ氏(作家)、結城登美雄氏(民俗研究家)、室崎益輝氏(災害復興学会特別顧問)の講話、シンポジウム、ワークショップなど

問 070-5059-9869(庄子)

農作業してみたい方を募集しています

農業・人・生物多様性をテーマに活動しているNPO「こよみのあしおと」では、月1~2回、農作業イベントを開催しています。収穫や草取りなど、太陽の光を浴びて土に触れる体験を一緒にしてみませんか。

対象 どなたでも参加できます

時 月1~2回程度、日帰り

場所 若林区日辺の畑が中心

費用 年会費500円(ボランティア保険300円、運営費200円)。畑までの交通費や昼食は自己負担

※イベントは畑に現地集合となります。移動手段がない場合は他の参加者の方と調整しますのでお申し出ください。都合がつかない場合はご了承ください

申・問 こよみのあしおと(久保田)e-mail koyominoashioto@gmail.com 080-6027-7836(18:00~) <http://ktmhp.com/hp/koyominoashioto/>



織部流震災復興仙台茶会

この茶会は、実際に被災された方々も一緒にお茶を喫することで気分転換をしてほしいという思いで企画されました。大年寺山の風流な茶室でお茶を味わってください。申込不要。

対象 どなたでも参加できます

時 5月25日(土)午後、5月26日(日)午前

場所 茂ヶ崎庵(太白区茂ヶ崎3-10-20)

主催 綾部流山形支部

問 023-623-1072 織部流山形支部(蜂谷)

大切な人を亡くした方のわかちあいの会

仙台グリーンケア研究会では、大切な人を亡くした方の「わかちあいの会」を開催しています。ご遺族同士が、喪失による悲しみ、怒り、つらい気持ちなどを静かに語り合います。会の中で話されたことは、他にもれることはありません。申込不要、参加無料。

対象 大切な人を亡くされた方

時 5月18日(土)14:00~16:30(受付13:30~)

場所 仙台市民活動サポートセンター(青葉区一番町4-1-3)

※託児希望の方は事前にお知らせください

問 070-5548-2186 仙台グリーンケア研究会事務局

行政に関する苦情、要望・意見はありませんか

行政困りごと相談所は、例えば相続、登記、年金保険、労働、税金、借金、離婚、暴力、生活保護など、暮らしの相談のほか行政全般を受け付けています。お気軽にご相談ください。※相談内容の一部は予約制となります

対象 どなたでも相談できます(相談無料、秘密厳守)

時間 毎日10:00~18:00(店休日および年末年始を除く)

場所 藤崎一番町館6階(青葉区一番町3-4-1)

予約・問 022-263-6201 行政困りごと相談所

(総務省 東北管区行政評価局)

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
第3回ヤマモト元気会	山元町から避難され主に太白区内のみなし仮設にお住まいの方	5月11日(土)	10:00~12:00	太白区中央市民センター	同郷茶話会	要(電話か返信はがき)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234
まざらいん若林愛・違いサロン	若林地区のみなし仮設にお住まいの方	5月15日(水)	10:00~12:00	若林市民センター	歌と踊りのさわやか演奏会	要(返信はがき)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559
らくらくリフレッシュ in みやぎの	宮城野区中央市民センター周辺のみなし仮設にお住まいの方	5月15日(水)	10:00~12:00	宮城野区中央市民センター	自宅でできるストレッチ、筋トレなどの軽運動	要(電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
体を動かそう(健康体操)	泉区のみなし仮設にお住まいの方	5月17日(金)	10:00~12:00	泉区中央市民センター	泉中央地域包括支援センターの方と一緒に健康体操	不要	支えあいセンター いずみ 022-772-5755
福沢サロン	五城中学校区にお住まいの方	5月28日(火)	13:00~15:00	福沢市民センター	介護予防健康運動、お茶飲み交流会	要(電話)	支えあいセンター あおば 022-217-7234

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

爽やかな風が街を吹きぬけるこの季節、からだを動かすことの大好きな私は、まわりの方に「さあ、動きましょう」と声をかけるのですが、「苦手」「嫌いだから」と答えが返ってくるのがあります。人には得手不得手や好き嫌いがあるので、それも仕方ないことです。

動物である私たち人間は、動くことだから機能が維持されているのですが、何かの理由でこれまでの『動くこと』が制限された場合にはどうしたらよいのでしょうか。

例えば、病氣や怪我の時、「安静にしてください」と言われれば、安静を保つよう努めます。これは、治療や回復のために必要なことです。同時にこの安静な状況は、からだにとって従前の生活とは違って『動かないこと』が続くために、より大切な機能を失いかねない状況でもあります。この状況を可能な限り短くとどめるには、『動かないこと』の危険を知り、必要以上に安静や大事を取りすぎないことが大切です。

動くところは動かす、出来る事は自分でする、そして、普段から趣味など動く機会を創り出すことも、健康的な生活をするために、とても大切です。

入江徳子(いりえ のりこ)
健康運動指導士として震災後、避難所や仮設住宅集会所で指導を行っている健康増進センターのリーダー的存在

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ A B C D E F

1		2	3		4	5
		6		7		
8	9			10		
			11			
12		13			14	
		15		16		
17				18		

タテのカギ

- 5月18~19日に開かれる仙台・青葉まつり。今年の〇〇〇は「明日への力を百万人の情熱祭」
- 「悪徳」の反対語
- 仙台市の気候の特色のひとつに、〇〇の発生が挙げられます。年に20~30回と、政令指定都市の中でも群を抜いた多さです
- 青葉まつりのゆるキャラ、青葉〇〇〇〇〇
- おじいさん。また、老人の尊敬語
- 木材を何本も並べて結び止め、水に浮かべたもの
- 雲の切れ目に見える青空
- 「〇〇〇、礼、着席」
- 俗に、年輩の男性が放つ、時代遅れのダジャレなどは〇〇〇ギャグ
- 建設中の地下鉄東西線は、動物公園駅(仮称)から〇〇〇駅(仮称)を結ぶ予定
- 魚をおろしたり骨を切ったりするのに使う、〇〇包丁

ヨコのカギ

- 市に保険料や住民税などを納める方法のひとつで、給与などから引かれる方式
- 6月末まで、仙台市内の複数のミュージアムを周遊できる、「ミュー〇〇」が発売されています
- 3人組
- カラオケ好きが離さないものといえば?
- 洋服に対する和服
- 5月10~25日、岩沼市の金蛇山神社で〇〇まつりが開かれます
- 京の〇〇〇〇、大阪の食い倒れ
- 春が過ぎると梅雨の季節。梅雨入りに対して、梅雨が終わるのは梅雨〇〇
- 50年に一度の〇〇〇〇の本尊御開帳に合わせたイベント列車が、仙台-山形間を運行
- 気仙沼市の徳仙丈山が名所。5月から6月に見頃を迎えます
- 自転車シェアリングが仙台市で実現しました。その名も「ダテ〇〇〇」

前回のこたえ

A ユ B キ C ド D ケ

でした。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

編集後記

大荒れの予報が出された4月7日。取材を控えた私は、てるてる坊主をつくり、天候回復を祈りました。皆の願いが通じてか記念撮影では陽光が射し、来場者から歓声があがりました。(芳賀)

先ごろ、七北田川の土手にてツクシを採取。その晩は玉子とじにして日本酒で飲みました。シャリシャリとした食感と玉子のふんわり加減に緩む頬。山菜の季節は楽しいものです。(おおが)

お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越し後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛先:〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL:022-390-5755
FAX:022-390-5756 e-mail:kawara@mmmm.or.jp